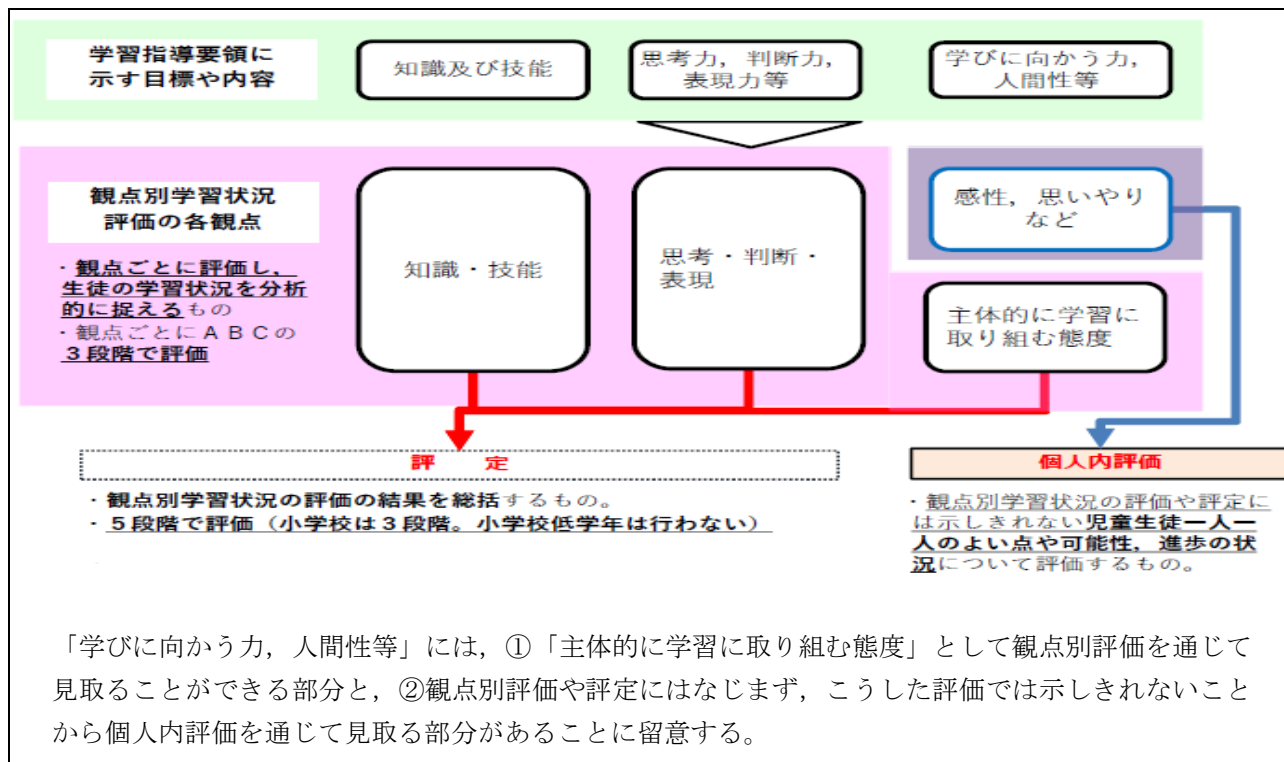


評価規準・評価基準の具体例作成にあたって

① はじめに

「児童生徒の学習評価の在り方について」（平成 31 年 1 月，中教審報告）や、「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録等の改善等について」（平成 31 年 3 月，文部科学省通知）において，評価について，次のように示されました。

【各教科における評価の基本構造】（報告 p. 6, 9 より抜粋）



【各観点の評価について】（報告 p. 7～11 より抜粋）

<知識・技能>

○個別の知識及び技能の習得状況について評価する。

○それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で，概念等として理解したり，技能を習得したりしているかについて評価する。

<思考・判断・表現>

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力，判断力，表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

<主体的に学習に取り組む態度>

①知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で，②自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

【評価の場面について】（通知 4. (2) より，下線は本稿にて付加）

学習評価については，日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であること。観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については，毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに，それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど，その場면을精選することが重要であること。

また、「各学校において学習評価を行う際の評価規準は、「内容のまとめりごとの評価規準」を基に、学習指導要領解説等を踏まえて作成する」こととされ、その補足資料として、「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」を作成する手順も示されました。

【第3学年の「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」の概要】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)について、<u>差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。</u> ・(A)について、観察、実験などを行い、<u>得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)についての事物・現象に<u>進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u> ・(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

※ (ア), (イ) は、知識に関する内容。(A) は、内容のまとめりにおける学習の対象。下線部は、学年によって表現が異なる場合がある部分。

※ 第3学年の「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」全体は、後掲資料をご参照ください。

②「わくわく理科」における評価規準・評価基準について

令和2年度以降用「わくわく理科」各単元における評価規準・評価基準の具体例は、上記の観点や趣旨に従うとともに、実際の学習活動に即して授業場面内で見取ることができるように、各単元の指導計画に沿った形で作成しましたので、指導の実際に応じて、適宜修正してご利用いただければと存じます。

※「評価規準」の具体例設定にあたって

- 「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準」の各項目を、それぞれの実現状況が把握しやすい場面に割り振って、その場面に即した形で作成しています。
- ・「思考・判断・表現」については、その場面で主に育てたい問題解決の力を取り上げて設定していますが、他の力についても、単元全体を通して見取っていただければと存じます。
- 季節に応じた副単元などでは、全ての項目を網羅していない場合もありますが、年間を通して見たときに、漏れがないようにしています。
- 「感性、思いやりなど」にあたる目標（自然を愛する心情など）は、評価規準としては設定していませんが、個人内評価を通じて積極的に見取っていただければと存じます。

⇒「評価基準」について

「評価規準」に達している場合がB評価、達していない場合がC評価となりますので、B基準・C基準は例示せず、評価規準をB基準としています。「評価規準」ごとに、「A基準」の例と、「B基準に達していない場合の手立て」の例を掲載していますので、ご参考になりましたら幸いです。

⇒「本時の目標」との対応

それぞれの『時』の「本時の目標」は、指導書の「指導案（研究編）」「朱註のページ（要点編）」に掲載しますが、その内容は、「評価規準」と共通としました。

（指導と評価の一体化）に鑑みて、それぞれの『時』に割り振った「評価規準」の内容を、その『時』の「本時の目標」として設定しています。なお、文末表現は、「評価規準」においては「～している」など、「本時の目標」においては「～できる」「～する」などで統一しています。）

（評価について、詳しくは指導書「総説」にも掲載します。）

資料：第3学年の「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」について

【第3学年の「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」の概要】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)について、<u>差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現する</u>などして問題解決している。 ・(A)について、<u>観察、実験など</u>を行い、<u>得られた結果を基に考察し、表現する</u>などして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)についての<u>事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しよう</u>としている。 ・(A)について<u>学んだことを学習や生活に生かそう</u>としている。

※(ア)，(イ)は、知識に関する内容。(A)は、内容のまとめりにおける学習の対象。下線部は、学年によって表現が異なる場合がある部分。

【第3学年の「内容のまとめりごとのより具体的な評価規準（例）」】

→青文字は、教科書「わくわく理科」におけるおもな該当単元名

A(1)「物と重さ」の「より具体的な評価規準（例）」

→教科書単元名：「11. ものと重さ」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している。 ・物は、体積が同じでも重さは違うことがあることを理解している。 ・物の性質について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の性質について、<u>差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現する</u>などして問題解決している。 ・物の性質について、<u>観察、実験など</u>を行い、<u>得られた結果を基に考察し、表現する</u>などして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の性質についての<u>事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しよう</u>としている。 ・物の性質について<u>学んだことを学習や生活に生かそう</u>としている。

A(2)「風とゴムの力の働き」の「より具体的な評価規準（例）」

→教科書単元名：「4. 風とゴムの力のはたらき」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・風の力は、物を動かすことができること、また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わることを理解している。 ・ゴムの力は、物を動かすことができること、また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わることを理解している。 ・風とゴムの力の働きについて、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風とゴムの力の働きについて、<u>差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現する</u>などして問題解決している。 ・風とゴムの力の働きについて、<u>観察、実験など</u>を行い、<u>得られた結果を基に考察し、表現する</u>などして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・風とゴムの力の働きについての<u>事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しよう</u>としている。 ・風とゴムの力の働きについて<u>学んだことを学習や生活に生かそう</u>としている。

A (3) 「光と音の性質」の「より具体的な評価規準 (例)」

→教科書単元名：「7. 光のせいしつ」「10. 音のせいしつ」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・日光は直進し、集めたり反射させたりできることを理解している。 ・物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わること理解している。 ・物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること、また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わること理解している。 ・光と音の性質について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・光と音の性質について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 ・光と音の性質について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・光と音の性質についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・光と音の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

A (4) 「磁石の性質」の「より具体的な評価規準 (例)」

→教科書単元名：「9. じしゃくのふしぎ」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること、また、磁石に近づけると磁石になる物があることを理解している。 ・磁石の異極は引き合い、同極は退け合うことを理解している。 ・磁石の性質について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・磁石の性質について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 ・磁石の性質について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・磁石の性質についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・磁石の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

A (5) 「電気の通り道」の「より具体的な評価規準 (例)」

→教科書単元名：「8. 電気で明かりをつけよう」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があることを理解している。 ・電気を通す物と通さない物があることを理解している。 ・電気の回路について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気の回路について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 ・電気の回路について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気の回路についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・電気の回路について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

B (1) 「身の回りの生物」の「より具体的な評価規準 (例)」

→教科書単元名：「1. 生き物をさがそう」「3. チョウを育てよう」「こん虫のかんさつ」
 「2. たねをまこう」「植物のつくりと育ち」「花のかんさつ」「植物の一生」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること、また、周辺の環境と関わって生きていることを理解している。 昆虫の育ち方には一定の順序があること、また、成虫の体は頭、胸及び腹からできていることを理解している。 植物の育ち方には一定の順序があること、また、その体は根、茎及び葉からできていることを理解している。 身の回りの生物について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生物について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 身の回りの生物について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生物についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 身の回りの生物について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

B (2) 「太陽と地面の様子」の「より具体的な評価規準 (例)」

→教科書単元名：「6. かげと太陽」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解している。 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあることを理解している。 太陽と地面の様子について、器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽と地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 太陽と地面の様子について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。